

森のこだま館

5/30(金)
オープン



右隣にはくずまきワインの工場があります

作って 遊んで 食べて 学ぼう

ゆったり心村体験

体験メニュー
そば打ち、押し花
つる細工、さき織り
木工など…
たくさんの体験が
できます



山の匂が
盛りだく
さん

平庭高原に、地産地消レストランやそば打ち体験などが楽しめる平庭高原体験学習館「森のこだま館」が五月三十日、オープンします。

くずまきワインの工場隣地にオープンする施設の館内には、山菜やまぶどうなどの地元食材をふんだんに使った「地産地消レストラン」やそば打ちやお菓子づくり体験などができる「体験学習スペース」などが設けられています。

自然の恵みや山村文化、新エネルギーの体感など楽しみ満載。作って・遊んで・食べて・学ぶ「森のこだま館」にはあふれる自然と豊かな環境がたくさん用意されています。

県から施設の管理運営を任せられたくずまきワインの漆真下満常務は「山村の魅力と旬の味わい、おもてなしにこだわっていきます」と、オープンに向けて意気込みます。

■施設の利用など詳しくは、くずまきワイン(☎66-3111)へお問い合わせください。



酪農家に春の訪れ告げる 県北ブラック&ホワイトショウ

町内酪農家 6部門でチャンピオンに

岩手県北ホルスタインクラブ(中六角保広会長)主催の岩手県北ブラックアンドホワイトショウは、四月二十日、江刈共進会場で開かれました。

晴天に恵まれた会場には町内から六十五頭、近隣町村から三十三頭の合わせて九十八頭が勢揃い。牛の年齢などによって第一部から第十二部に分かれ、それぞれの部門で体格や発育の程度、乳房の成長度など改良成果を競い合いました。

審査員は、これまで世界各国で審査を手がけてきたアメリカのジェフ・ジグラーさん。各部門ともスピーディなジャッジで審査講評も通訳が的確に訳しました。審査の結果、十二部門のうち六部門で当町の牛が一席に輝きました。酪農家に春の訪れを告げるこの共進会は、酪農家に明るい話題をもたらしました。

部門別チャンピオン

- 第1部 大牛内育成牧場(岩泉)
- 第2部 西館 一義(一戸)
- 第3部 大野畜産公社(洋野)
- 第4部 中家 学(吉ヶ沢)
- 第5部 佐々木秀樹(岩泉)
未経産牛の部グランドチャンピオン
- 第6部 林 文男(小屋瀬)
- 第7部 東館 光夫(吉ヶ沢)
- 第8部 川村 竜太(栗山)
- 第9部 松村 文継(田代)
- 第10部 外谷 辰也(久慈)
- 第11部 堤内 武人(洋野)
経産牛の部グランドチャンピオン
- 第12部 松村牧場(田代)

「勉強したからです」。

このことが刺激になり、僕は考えました。日本人だからといって、必ず日本語を話せる訳でもないのです。周りの人が日本語で話すから日本語を話せるようになるのです。

長年海外で暮らして帰国した子どもたちに「日本人なのに、なぜ日本語を話せないの?」と、よく聞くフレーズがあります。その答えは、外国に滞在中、日本語を話す人が周りにいなかったのです。

アメリカにいたとき僕は、「空手できる?」と聞かれ、「いいえ」と答えると、「なぜ?」と、繰り返し聞かれました。その人は僕が日本人だと思って、当然空手ができるものと思い込んでいたのです。

言語は身に付けるものです。すべて同じです。

27
デイビット・マナーリオ
(指導主事助手・30歳)

「えっ?なぜ日本語を話せるのですか」

「両親のどちらか日本人ですか」

「いいえ」

「言語は身に付けるもの」

昨年、森と風のがっこうの、あるイベントに行ったとき、一人のボランティアが僕が外国人であることに気がついて、僕に聞きました。